

不思議ふしぎ!?

京都に隠れた意外な秘密を紹介します

貴族になった山!?

酷暑の夏が過ぎ、体露金風の好季となりました。色つき始める山々に心がときめきます。そんな京都の山の中になんと貴族の仲間入りをした山があるのをご存じですか？

皆さんは「五位鷲」という鷲をご存じでしょうか。その昔、醍醐天皇が神泉苑に行幸された時、三色の珍しい鷲を見かけ捕ってくるよう命じます。しかしなかなか捕まらず、困った捕り手が「宣旨であるぞ」と一声かけると鷲は羽をたたみその場に平伏しました。その行為を愛でて天皇が五位の位を授けたと『平家物語』に書かれています。



五位鷲 (ゴイサギ)



神泉苑 法成就池

裏山、このお寺を創建した鳥羽天皇の中宮・待賢門院璋子の墓がある山で、その名もずばり「五位山」といいます。双ヶ丘の東にあり、かつて仁明天皇が行幸されたとき、この山の景観を愛でて「五位」の位を与えたのです。承和十四年(八四七)十月のことと『日本紀略』は伝えています。

五位というのは功績に対して与えられる「位階」の一つで、一番下の初位から最上の二位まであり、五位以上が御所の清涼殿に昇殿できる殿上人。この五位以上の位を持つ人を貴族といえます。大夫ともいい、現在私たちが御所参観のとき最初に見る「諸大夫の間」に入ることでできます。

この五位の位をもらい貴族となった山があるのです。夏の蓮で有名な花園「法金剛院」の

京都好きを大好きに

歴史や文化、全てが源流へとたどり着く古都。京都を知ることには日本を理解すること。

京都
検定
京都観光文化検定試験
京都商工会議所

もつともこれには先例があつて、中国の秦の始皇帝がにわか雨に打たれたとき、雨宿りをした松に「大夫」の位を与えたのが最初で、大夫は五位に相当し、以来五位を「松の位」といいます。山や木や鳥に位を授けるなんて、日本も中国も雲上人の考えは想定外で驚きます。それにしても平伏した鷲ならまだしも、ただ眺めがよいだけで貴族になれるなんて、昇進、任官のために涙ぐましい努力を重ねた当時の人々にはなんとも羨ましい話ですね。



史跡指定の石標部分。
青女滝は日本最古の人工滝組と伝わり、この滝と五位山が史跡。



法金剛院庭園
手前が夏の蓮池。正面右側の木立が五位山。建物は本堂。屋根の向こうは双ヶ丘。